

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名

そうぞうしたことを、音読げきであらわそう『お手紙』

2 単元の見どころ

○語のまとまり(単語・文節等)や言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。【知識・技能】

○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。【思考・判断・表現】

○場面の様子に着目して、登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って音読劇に取り組みようとする。

【主体的に学習に取り組む態度】

3 単元構成の意図

少人数学級ということもあり、仲はよい一方で、自分の見方・考え方を深めるために友達の多様な発想にふれるという経験が乏しく、授業では意見が収束的思考で進む予定調和な展開になりやすい。国語科の文学的文章の学習では、登場人物のしたことや、言ったことをとらえる力についてはついてきている一方で、その言動の様子を想像する力は個人差が大きい。

本単元は、『お手紙』と「この本、読もう」で構成され、「音読げきをする」という言語活動になっている。音読劇の読み方や動きを工夫し、その根拠となる言葉について考えることで、人物の行動と様子を詳しく読み、気持ちを想像することにつなげることができる。そこで、本単元では、音読劇をよりよくするために、登場人物の様子を具体的に想像することを強く意識付けながら、学習を進めることで、児童の言葉の力や想像力の向上を図りたい。また、登場人物や場面の様子想像する際、拡散的思考につながる発問を皮切りに、少人数ながらに多様な考えを引き出し、対話によって一人一人の考えが深まっていくようにする時間を設定したい。

4 単元の計画 (総時数 14 時間)

時	場面	学習活動 (夢中に学んでいる姿)	資質・能力
1	見通す	単元を見通し、音読劇やそのために読み取ることについて期待を持つ。「この本、読もう」の同じシリーズ本を知り、並行読書への意欲を高める。	単元の目標を知り、学習の見通しをもって音読劇に取り組みようとしている。(主)
2・3	習得する	「お手紙」を読み、場面分けをしたり、登場人物の行動を読み取ったりしている。	「場所」をもとに場面分けできる。(思) 登場人物の行動を読み取れる。(思)
4～8	考える 習得する	各場面でのかえるくんやがまくんの行動を、具体的に想像することを通して、登場人物になりきって音読している。	語のまとまりに注意し、音読できる。(知) 登場人物の様子や気持ちを、挿絵や本文の言葉を基に想像することができる。(思)
9 本時	対話する	二人が手紙を待っているときの気持ちについて考えたり、話し合ったりする。	二人が手紙を待っているときの気持ちについて想像を広げることができる。(思)
10	考える	音読劇で表現したいところを選び、読み方や動きを書き込む。	これまでの学習を生かし、想像したことを音読劇に生かそうとしている。(主)
11～ 13	対話する 習得する	グループごとに練習をし、感想を伝える。友達の助言や読み方から、自分の音読のしかたを考え直し、練習する。	登場人物の行動や、表情、口調、様子などを想像して表現することができる。(思) 読み方や動きについて思ったことを伝え合うことができる。(思) これまでの学習を生かし、想像したことを音読劇に生かそうとしている。(主)
14	振り返る	音読劇の発表 (学校行事) 及び単元全体の学習を振り返る。	これまでの学習を生かし、同じシリーズの本を進んで読もうとしている。(主)



単元を通して育成したい子どもの姿

文学的文章を、文章中の表現をもとに読み、想像したことを表現する意欲や読書意欲を高める姿

